

2019.10.12 台風19号



令和元年10月12日、台風19号が長野県に甚大な被害をもたらしました。19号は、猛烈な風雨を伴って接近し、長野市域では千曲川の堤防が、穂保地域で決壊しました。この写真は翌13日朝7時頃の豊野近辺ですが、この後水害はさらに広がり記録的な大災害になりました。

浸水被害にあった古文書の泥を落として乾燥させる作業をしました。



航空写真紹介

ようこそ若里へ



現在の公文書館所在地

飛行場

長野駅東口エリアは、1998年の長野冬季オリンピックを機に整備が始まりました。若里近辺には、信州大学工学部、ビッグハット、ホクト文化ホール、水野美術館等の文化的な施設がたくさんあります。

また、江戸時代から盛んに行われるようになった煙火大会、中でも全国的に有名な「えびす講煙火大会」も昭和40年代から、ここ若里の犀川河川敷で打ち上げられています。

そんな若里地区の昭和36年当時の航空写真です。辺りは田んぼだらけ。右手の方には飛行場もあります。

公文書館の通路には当時の長野市内の航空写真のパネルが並んでいます。皆さんの家は見えますかな？

日々是文書 ~スタッフ通信~



【活動記録】

- 7/25、8/23、9/20 安茂里公民館出張講座
- 10/9 中野市職員視察見学
- 11/7 市立長野高校出張講座
- 11/14.15 全史料協総会出席
- 11/20 公文書館開館
- 12/1 講演会

【公開資料】

- 「北澤克敏文書」(古文書135点)
- 図書目録を更新しました



【公共交通機関のご案内】

長電バス又はアルピコ交通「日赤」下車、徒歩3分

●長野駅(東口)からは、長電バス 日赤経由アークス中央・ビッグハット・水野美術館方面行をご利用ください。

●長野駅(善光寺口)からは、アルピコ交通 日赤経由大塚南・松岡・サンマリン方面行をご利用ください。

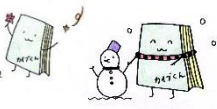
※駐車場が少ないので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

長野市公文書館

所在地 〒380-0928
 長野市若里六丁目6-2
 長野市若里分室内
 電話 026-224-0701
 F A X 026-224-0702
 E-mail shomu-9@city.nagano.lg.jp
 ホームページ <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>

長野市公文書館便り

2019/20 Autumn/Winter



発行日：令和2年(2020)1月15日 発行：長野市公文書館

©NaganoCityArchives

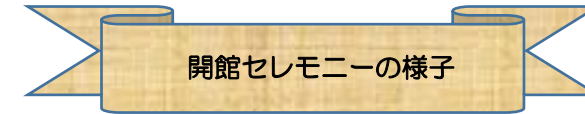
長野市若里に移転

11月20日開館しました。



長野市公文書館は、移転のため休館しておりましたが、令和元年11月20日に開館しました。皆様には、長い間ご迷惑をおかけしましたが、新しい公文書館は、明るく、機能的な施設になりました。適切な文書の管理を行い、より利用しやすい施設になるよう、努めて参ります。皆様のご利用をお待ちしております。

開館セレモニーの様子



長野市公文書館

所在地 長野市若里六丁目6-2 長野市若里分室内(〒380-0928)
 電話 026-224-0701 F A X 026-224-0702
 H P <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>
 又は **長野市公文書館** で検索
 E-mail shomu-9@city.nagano.lg.jp
 開館時間 午前9時~午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)
 休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日
 年末年始(12月29日~1月3日)

こんなときにはご相談ください。

- ☆古い土蔵などを取り壊すので、古文書や古い写真等の所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ☆所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

セレモニーの後、来賓の皆様と開館を心待ちにしていたお客様に、館内をご案内しました。その写真にそって新しい公文書館をご覧ください。

1階の様子



←閲覧室
作業室→



↑1階書庫（複製資料・図書・行政刊行物他）



後日学生さんが、早速資料調査にみえました。



2階の様子



↑2階書庫（和紙公図・旧役場文書・非現用文書他）



直接手に取って見て頂きました。



3階の様子

長野市域から寄贈、寄託された古文書等が、大切に保存されています。



←3階書庫（古文書他）→



長野市公文書館移転記念講演会

「中世の善光寺と善光寺信仰」

信州大学名誉教授 牛山佳幸先生 令和元年12月1日

令和元年度、移転記念講演会を、12月1日(日)に開催しました。100人を超える多くの方にご参加いただき、有り難く思っています。

以下は、講演の概略を紹介します。

善光寺信仰は、死後の極楽往生だけでなく現世利益をももたらす現当二世の救済を特徴とする浄土信仰にある(生身如来・三国伝来など)。

平安時代後半には貴族社会や仏教界で善光寺信仰が形づくられ、鎌倉時代の武士政権になって宗派や立場を越えて全国的に広がった。

今回は中世における善光寺信仰の全国的流布の背景と実態について①善光寺と武士政権である鎌倉・室町両幕府との関係②これまであまり注目されてこなかった他信仰との融合・相互影響について事例を紹介しながら検討する。

①・**鎌倉幕府との関係**…1179年善光寺焼失。鎌倉幕府成立後、信濃国の支配を握った源頼朝は、地頭・御家人らに善光寺再建の協力を命じ、将軍家菩提所とした可能性が高い。その後も特別な保護・支援があり、善光寺信仰は、北条氏一門はじめ多くの御家人に受容され、鎌倉・南北朝期には、地頭らが檀那として所領内に建てたとみられる新善光寺が約40ある。蒙古襲来で東国御家人が西国に移住し、中国・九州地方にも広がった(熊本の佐野氏と小代氏など)。

・**室町時代との関係**…室町時代、北条氏の御願寺に善光寺は見られず特別な保護はない。室町時代3度の火災の再建に各30~40年を要したのは、武士層の援助が期待できず、寺の努力と庶民の勧進が主だったため。また、朝鮮半島との貿易による資金集めや勧進帳を南禅寺などの有力者に依頼もしている。三管領の一人斯波氏が守護職につき信濃へ二宮氏を送ると、初めて善光寺の近くに守護所が設置された。豊御所(守護の正庁か。現間御所)、中之御所(第二庁舎。現中御所)があり、横山城(城山)は豊御所の詰城で善光寺も守る軍事的要衝であったと考えられる。

②・**中世に善光寺信仰が全国的に流布した主な背景**…武士層が領内に新善光寺を建立し、それが拠点となって一般層へ。勧進聖・念仏聖・修験者等全国遍歴する宗教者が多数いて、その布教活動による広がりなど。

・**聖徳太子信仰と善光寺信仰との融合**…聖徳太子を聖人化し、平安期には日本仏教興隆の開祖・恩人とする信仰に発展する。その聖徳太子と日本最古の善光寺仏を結びつけた。

・**諏訪信仰と善光寺信仰との習合**…奈良時代初め水内・諏訪・伊那郡の郡司は金刺舎人であり、健御名方富命彦神別神社は善光寺境内にあった諏訪大社の分社。「遊行上人絵伝」には善光寺境内の神社の柱に諏訪社御神体の薙鎌の絵が描かれている。

・**他寺の伝承縁起と相互影響**…浅草寺・甚目寺などの縁起に見られる「霊仏海中出現説」と三神像(善光寺は三尊仏)。京都清涼寺・因幡堂薬師の「三国伝来」伝説を有する三体(清涼寺釈迦・因幡堂薬師・善光寺阿弥陀)の生身如来。随求堂(京都清水寺)・谷汲山華厳寺などの胎内巡りは再生(生まれ変わり)の儀礼に因むもの。

善光寺では瑠璃壇の廻りを巡ることを戒壇巡りと呼んでいるが近代以降廃止され、現在の戒壇巡りは地下の胎内巡りと混同されたのではないかと考えられる。

詳しくは「市誌研究ながの」27号に講演記録を掲載する予定です。

熱心に聴講されている様子↓

